

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">ベンチャービジネス論</p>	<p>対象学科・学年 人間社3回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">中山 貞敏</p>
<p>授業テーマ</p> <p>自分の事業を立ち上げる</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>授業目標： 授業終了時点で、「起業を他人事で無く、身近なものとして感じている」「ベンチャー関連の記事やテレビニュースに興味を持てる」「事業の種を考えることが面白いと思える」</p> <p>授業概要： ベンチャービジネスの事例を、ゲストスピーカーやビデオ・文献によって見ていき、理解を深めます。また、起業の前に必要な事業の種についても、ビデオを使いながらさまざまな事例を通して考えていきます。最後に、事業の立上に必要な資金の問題や制度について考えていきます。受講生の中から、外部の起業インキュベータなどの実施する起業コンテストなどへの参加者が出ることを期待します。</p>		
<p>評価方法</p> <p>レポートにより評価します。(評価基準の詳細は、第一回目の授業でお知らせするので必ず出席すること)</p>		
<p>テキスト</p> <p>初回の授業で指定します</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>経営革命の構造 起業と倒産の失敗学 など多数</p>	<p>著者 米倉誠一郎 畑村洋太郎</p>	<p>出版社 岩波新書 文春文庫</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>日本の閉塞状況を打破するのは、アントレプレナーシップ(起業家精神)に富んだ若者たちによるベンチャービジネスだといわれてすでに久しいものがあります。ライブドア事件などの影響により、一時水を差されてしまいましたが、基本的な流れは変わることは無いと思われます。もちろん起業には大きなリスクが付きまといます。そのことを考慮せずしてばら色の幻想だけ追いかけてもしょうがありません。明確な戦略と計画・経営資源の準備に支えられた「夢」にする必要があります。</p> <p>終身雇用制度が崩壊した今、企業で10年程度実務の訓練をしてもらい、その後退職して起業を考えるという働き方もひとつのキャリアプランとしてありうると思います。さまざまな事例を見ながら皆さんも働き方を一緒に考えてみませんか。</p> <p>1回 講義ガイダンス (内容説明・評価基準の詳細・授業ルールなど)</p> <p>2回 数字で見る日本のベンチャービジネスの状況</p> <p>3回 ハイテク系ベンチャービジネスの事例 (ビデオによる事例と解説・討議)</p> <p>4回 ローテク系ベンチャービジネスの事例 (ビデオによる事例と解説・討議)</p> <p>5回 女性経営者のベンチャービジネスの事例 (ビデオによる事例と解説・討議)</p> <p>6回 事業の種を考える1</p> <p>7回 事業化を考える1</p> <p>8回 事業化を考える2</p> <p>9回 起業に必要なステップとリスクを考える</p> <p>10回 資金の問題</p> <p>11回 株式の上場とは</p> <p>11回 ゲストスピーカーによる起業の体験談1</p> <p>12回 ゲストスピーカーによる起業の体験談2</p> <p>13回 起業支援の現状</p> <p>15回 まとめ</p> <p>「上級ビジネス実務士」「社会調査実務士」の選択科目。</p>		